

(第3種郵便物認可)



おだしか健康レポート

ODASHIKA HEALTH REPORT

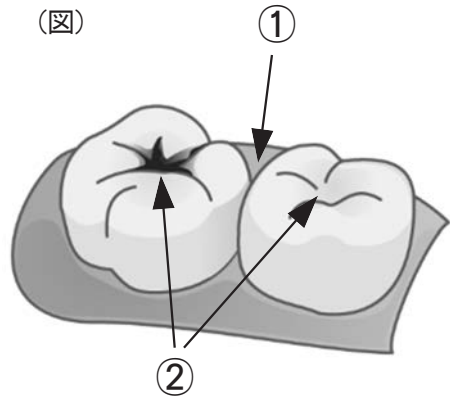
— 5 —

1 むし歯になりやすい部分と予防的治療

前回はむし歯をどう予防するかを書きました。しかし、一本の歯の中でも予防することが難しく、むし歯になりやすい部分があります。歯と歯が接する隣接面と呼ばれる部分(図の①)、小臼歯、大臼歯など奥歯の物を噛む面である咬合面の裂溝と呼ばれる谷間の部分(図の②)や小窩と呼ばれる歯面にできた小さな穴になります。このうち、裂溝と小窩はその溝や穴の構造から前回までの予防対策では効果が得られない場合が多々あります。なぜならブラッシングのような物理的な清掃が行き届かず、

フッ化物のような薬物も行き届かない場所になるからです。このような場合、歯が萌出してくる早い段階で裂溝や小窩を樹脂やセメントで埋める予防的治療を行うことにより、構造的な問題をなくすことでむし歯の

予防が可能になります。このような処置は行う時期や埋める材料の性質に依存するため、外れたりすり減ったりすることがあります。そのため何度か繰り返しして成人までむし歯にならないようにしていきます。



(図)

むし歯のはなし④



あんざい・よしみつ
1967年生まれ、
小田原市出身。日本歯科大学歯学部卒業。

2 むし歯の治療の誤認

治療を必要とする患者さんをはじめ様々な場面でお会いする多くの人からむし歯に対し「詰めて治した」とか「被せて治した」という話を聞くことがあります。むし歯による穴を埋めるゆえの感覚なのでしよう。この項ではもう一歩むし歯の治療に対して理解を深める必要があります。これまで述べてきた

ように、むし歯の実態は歯の硬組織が酸に溶かされながら進行していきます。治療とは、歯の溶かされた部分を取り除くことが本質になります。すなわち、むし歯になった悪い部分を取り除き、歯髄に影響がない状態であれば治療は終わることになります。しかし、そのままの状態では歯髄を守る構造がないた

め、冷たいもの等で凍みたり再度むし歯の進行を許したりすることになります。そのため欠損した部分を向かしの形で補う修復という処置が必要になります。従って詰めるや被せるといった行為は治すというよりも直すといった修理に近い行為になります。通常むし歯を取り除き修復までの一連の行為が治療とされます。

3 歯の修復

前述したようにむし歯の治療ではどの程度の進行で治療ができたかが重要であり、その後の修復についてはその治療結果に応じて考えれば良いものであります。しかし、一連の治療の最終段階に行うという現実的な問題があります。取り除いた歯の部分だけを修復しても、歯と修復物の境界がむし歯の好発部にあれば再発を招きます。そのため再度の介入がないよう修復を行うこととなります。

前歯、奥歯を問わずむし歯が大きく進行して歯の形が崩れている場合は歯を覆う形で被せる必要があります。被せる必要のない場合は基本的な原則に沿って修復をします。

奥歯でも噛む力のかからない部分であれば前歯と同じように修復します。しかし、咬合面や隣接面といった噛む力が強くなる部分の修復には適切ではありません。そのような場合、金属やセラミック

クといった材料を利用することになります。それぞれの材料により長所、短所があります。それを網羅する材料はないという現実があります。

す。そのため、修復にあたってはむし歯の治療の状況を把握したうえで、よく相談して決めていく必要があります。

- ・裂溝や小窩には予防的治療が有効である
- ・むし歯に罹った部分を取り除くのが治療
- ・治療結果により修復方法を選ぶもの

ポイント

前歯は噛む力が大きく影響せず、見た目に

小田原歯科医師会事務局

TEL. 0465(49) 1311

FAX. 0465(49) 1551

〒250-0875 小田原市南鴨宮2-27-19

一般社団法人小田原歯科医師会は、小田原市、箱根町、真鶴町、湯河原町の歯科医師会会員で構成されています。このホームページでは、一般社団法人小田原歯科医師会が主催、後援または協力している事業とそれに関する情報やお知らせを紹介しています。

<https://odawara-dent.or.jp/>

小田原歯科医師会 検索

歯と口腔に関わるご相談
往診・歯科訪問診療の
ご相談は

一般社団法人小田原歯科医師会
地域支援歯科連携室
まで

TEL/FAX 0465(49) 1319

月～金

9:00～12:00 13:00～17:00